

恵山の火山活動解説資料（令和4年10月）

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～4、図5-①）

6日に国土交通省北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、前回の観測（2021年9月）と比べて、X火口及びY火口の噴気の状況に特段の変化は認められませんでした。また、赤外線熱映像装置による観測でも地熱域の状況に特段の変化はありませんでした。

監視カメラによる観測では、Y火口の噴気の高さは火口縁上100m以下で経過しており、噴気活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図5-②～③）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図5-④）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められません。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』及び『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和4年11月分）は令和4年12月8日に発表する予定です。



図1 恵山 西南西側から見た山頂部の状況（^{ただい}高岱監視カメラによる）

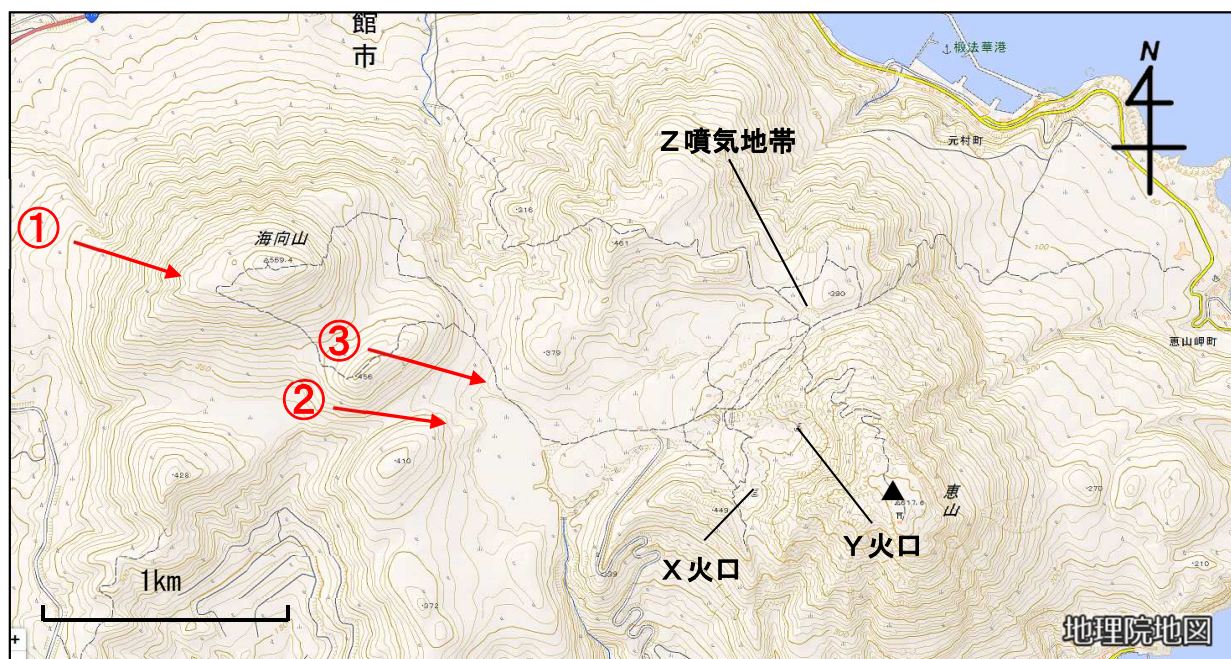


図2 恵山 火口周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）



図3 恵山 火口周辺の状況
北西側上空（図2の①）から撮影

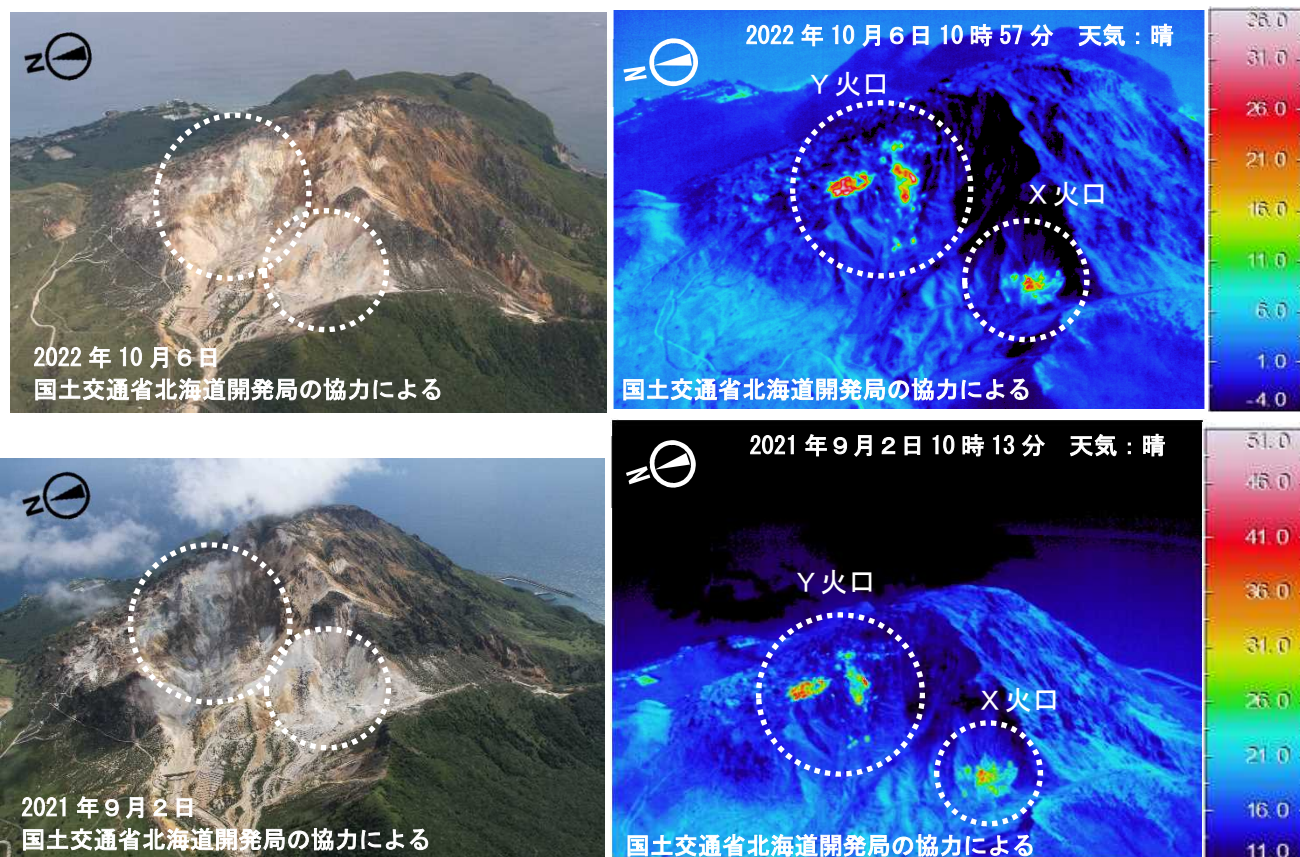


図4 恵山 赤外熱映像装置によるX火口及びY火口の地表面温度分布

上：西側上空（図2の②）から撮影 下：北西側上空（図2の③）から撮影

- ・前回の観測（2021年9月）と比べて、地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

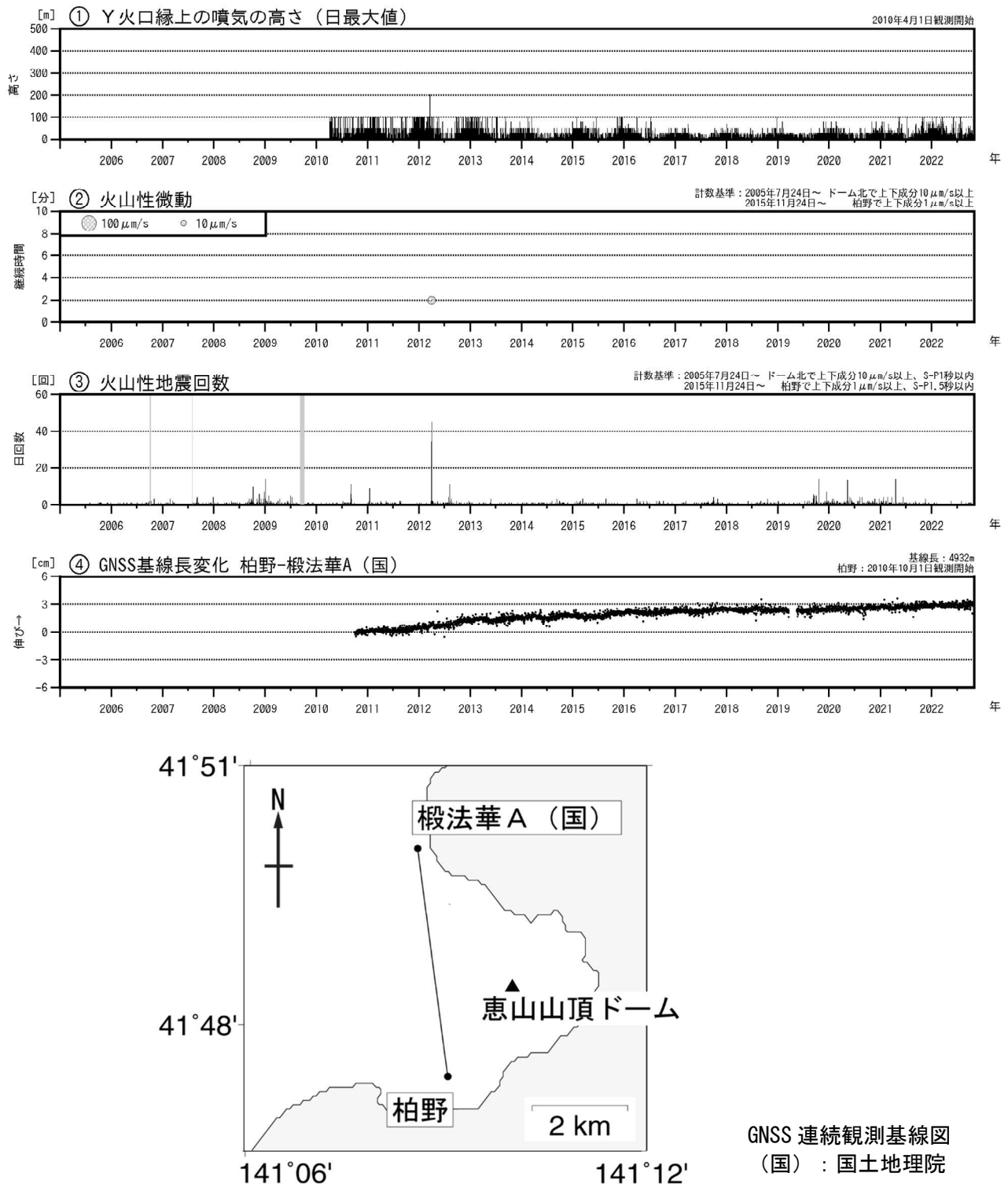


図5 恵山 火山活動経過図（2005年7月～2022年10月）
③の灰色部分は機器障害による欠測期間を示します。
④のグラフは上図の基線に対応しています。
④のグラフの空白部分は欠測を示します。

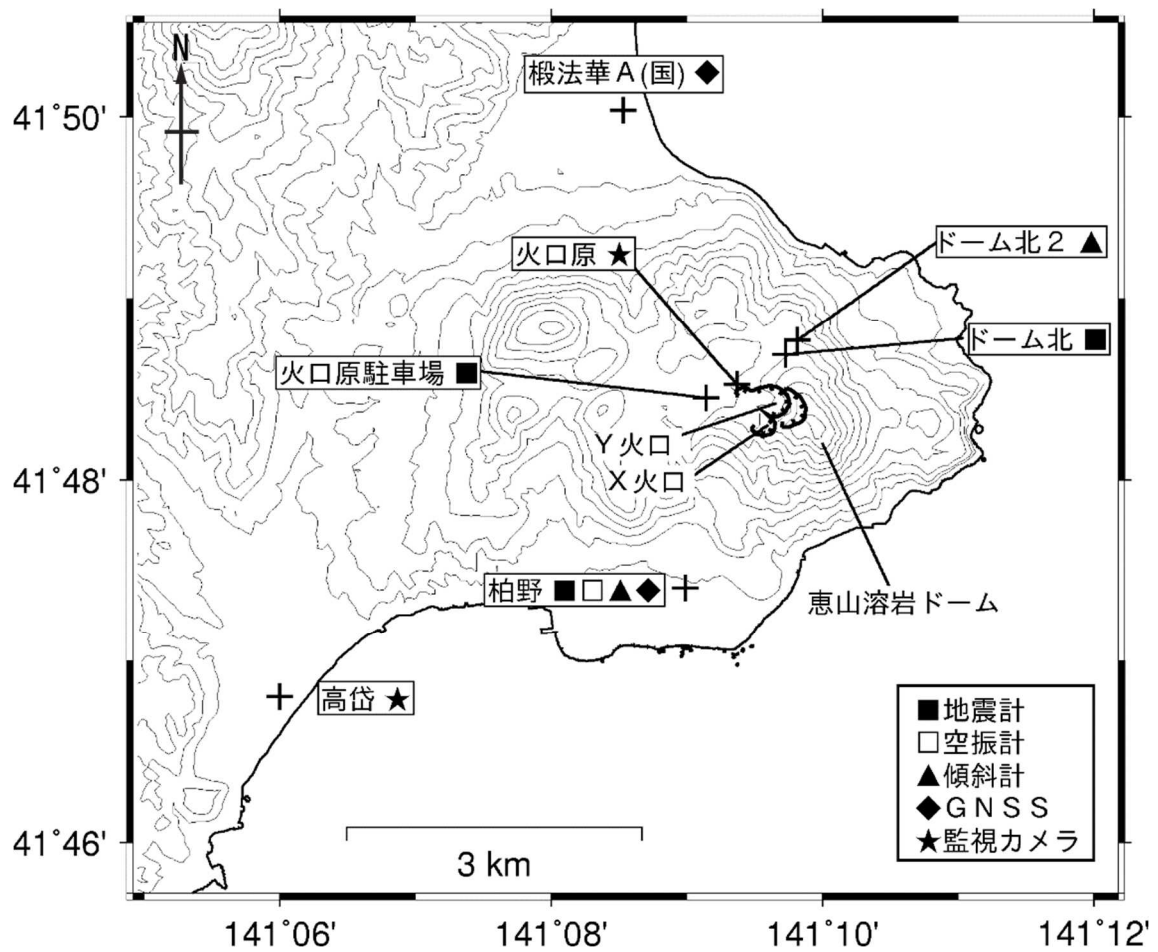


図6 恵山 観測点配置図

＋は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

（国）：国土地理院